

科学道100冊 傑作選

「科学道100冊」とは、理化学研究所と編集工学研究所による、本とおして科学のおもしろさや素晴らしさを伝えるプロジェクトです。理化学研究所の研究者・職員が選んだ100冊。そのうち松蔭中高図書館では62タイトル所蔵しています。

科学が好きな人はもちろん、なかなか科学の本に手が出ない人も、この機会に科学の魅力に触れてみませんか。

松蔭中高図書館 担当 福永
library@shoin-jhs.ac.jp

『宇宙への秘密の鍵』

ルーシー&スティーヴン・ホーキング著
さくまゆみこ訳 岩崎書店 2008

小学生のジョージは、となりに引越してきた科学者エリックと出会い、世界一パワフルなコンピュータ「コスモス」を使って宇宙を旅することに！

宇宙物理学者のホーキング博士と娘が書いた冒険物語。一緒に宇宙旅行をしているようにわくわく、時にドキドキしながら読み進めていくうちに、宇宙の魅力に、どんどんはまります。

『人類、宇宙に住む 実現への3つのステップ』

ミチオ・カク著 齊藤隆央訳 NHK出版 2019

いつかやってくる地球温暖化や自然災害、小惑星の衝突などで、地球に住めなくなる時。人類は、絶滅から逃れるために、別の惑星に移り住む準備が必要です。

この本では、移住に必要なステップを紹介。SFではなく、実際に宇宙開発の計画や挑戦が、世界中で進んでいることに驚きです。

「科学道100冊傑作選」のタイトルリストは、「科学道100冊」ホームページをご覧ください。

<https://kagakudo100.jp/lineup-masterpiece>



科学者について

『日本のスゴイ科学者 29人が教える発見のコツ』

日本科学未来館 朝日小学生新聞編著 朝日学生新聞社 2019

ノーベル化学賞を受賞した吉野彰先生をはじめ、すごい発見や発明をした29人の科学者が紹介されています。最先端の研究内容も、わかりやすく解説。子ども記者によるインタビューでは、科学者になりたい人へのアドバイスもありますよ。

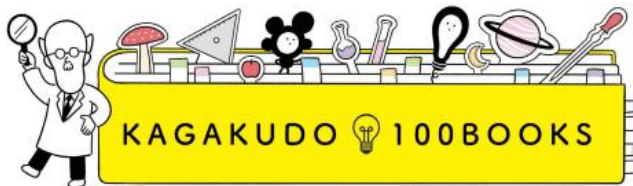
『世界を変えた50人の女性科学者たち』

レイチェル・イグノトフスキー著 野中モモ訳

創元社 2018

女性が科学を学ぶことが大変な時代に、あきらめず自分の信じた道を進んだ女性科学者たちの物語です。

核分裂の仕組みを発見したリーゼ・マイトナーや、宇宙飛行の飛行経路を計算したキャサリン・ジョンソンなど様々な分野の科学者たちの人生は、好きなことへ挑戦する強いエネルギーが感じられます。



『世界の天変地異 本当にあった気象現象』

マッティン・ヘッドベリ著 ヘレンハルメ美穂訳 日経ナショナル ジオグラフィック社 2021

最終氷期(一番最近の氷河期)が終わり、地球の平均気温が4℃上がったとき、その変化に6000年かかったそうです。それが、今は同じ規模の変化が100~200年の間に起きかねない状況だとか。そんな気象の変化がもたらす豪雨や暴風などを、迫力ある写真とともに解説した一冊です。

絵本で科学！

『せいめいのれきし 改訂版』

バージニア・リー・パートン 文・絵
いしいももこ訳 岩波書店 2015

46億年前に地球が誕生してから現在までのおはなし。人類の登場は、地球の歴史では、ごく最近のことだと実感できます。絵にも情報がたっぷり。じっくりと楽しみたい本です。

『ぼくのニセモノをつくるには』

ヨシタケシンスケ作 ブロンズ新社 2014

ぼくのニセモノをつかって、やりたくないことをやらせてもらおう！
けんたくんは、ロボットに自分のことを説明していきますが...



『絵とき ゾウの時間とネズミの時間』

本川達雄文 あべ弘士絵 福音館書店 1993

人間の心臓は、1秒にほぼ1回打つ。ネズミは、人間の10倍はやく0.1秒、ゾウはゆっくり2秒。動物の寿命はそれぞれ違うけれど、心臓が1回打つ時間を基準にすると、同じ長さだけ生きていくことになるそうです。人間の時間とはまた別の、動物それぞれの時間に、少し思いを巡らせてみませんか。

『風の谷のナウシカ アニメージュ・コミックス・ワイド判』

全7巻
宮崎駿著 徳間書店 1995

発達した産業文明が戦争によって崩壊した後、人間は、わずかな土地でしか暮らせなくなり...

この漫画版「ナウシカ」は、映画の原作ですが、設定や結末は異なっているところもあり、別ものと言えるかもしれません。映画版よりも複雑で、奥深い内容になっています。

リクエスト

『くるみ割り人形』E・T・A・ホフマン著
ポプラキミノベル 2022

このお話は主人公マリーがクリスマスの夜にくるみ割り人形と出会い、夢の世界へ冒険に出る話です。マリーは信じる力と豊かな創造力を持った女の子。どんな時でも明るく生きようとする姿に勇気づけられます。ぜひ読んでみてください。J2 K・N



寄贈図書紹介

『ジェンダー・クライム』天童荒太著 文藝春秋 2024

一気に読みました。面白かった。「性被害」を取り上げているのですが、シリアスな側面とこっけいな側面とをうまく混ぜ合わせていて、エンタメ（警察）小説でありながら、社会の問題にも目配りするところがいいです。本文に「男のくせに女の腐った奴みたいにビービー泣きやがって」と言う、いかにも昭和な刑事が女性警官に「あなたは女が腐った状態をご存知なんですか」とやり返され、ドギマギするシーンがありますが、これなど現代のセクハラ・パワハラがなぜなくなるのか、なくすにはどうしたらいいのか、ちょっと考えさせられます。なんにしてもハラハラしながら読める作品です。英語科 A・N

『感染症でまなぶ日本と世界の歴史 医学・歴史学とつむぐ歴史総合』飯島渉・古澤美穂ほか編著 2024

以前、松蔭で世界史を教えていらした古澤先生の著書です。医学の専門家による解説、歴史学者による叙述、高校の歴史教員による授業例の提示をコロナも含めた13の感染症について書かれています。

古澤先生の参加されている「天然痘」は、私などは「ベルサイユのばら」のルイ15世の死に様で恐ろしかった覚えがあります。同じく「ハンセン病」も『砂の器』や『あん』などの残酷な差別を思い出しますが、第3部の授業例を読むととても歴史がわかりやすく、参考文献も載っています。図版も多く、ウィルスと世界史、文化背景も含め包括的に理解できる良著です。



新着図書紹介

『タンタン、ありがとう 神戸とパンダの記録 保存版』神戸新聞社編、神戸新聞総合出版センター 2024

2000年に王子動物園に来て、今年の3月に亡くなったタンタンの記録です。初代のパートナーとしてやってきたオスのコウコウは実はメスだったとか、タンタンの利き手が時々変わることとか、気に入る竹を探すのに苦労したことや人工授精や健診に協力的だったことなどが、愛くるしい写真と共に読むことができます。愛されタンタン、フォーエバー！



『ガザとは何か パレスチナを知るための緊急講義』

岡真理著 大和書房 2023

8月のお誕生礼拝の招待状に杉原千畝のビザを手伝った女子学生のことばを載せました。第二次世界大戦のとき、ユダヤ人がドイツやその占領国に残っていたら大量虐殺（ホロコースト）に遭っていました。そこから逃れるための手助けとして命のビザを発行し続けたのが日本の杉原千畝でした。

いま、ガザで、イスラエルによるパレスチナ人の大量虐殺（ジェノサイド）が起きています。第二次世界大戦中、迫害されていたユダヤ人が集まって1948年にイスラエルを建国しました。そこにいたパレスチナ人が土地を追われ、難民になってしまったんです。彼らはいずれ自分の家に帰れるだろうと鍵をかけていった。だからパレスチナの鍵は、失われた故郷のシンボルです。（スイカのバッジも「抵抗」のシンボルです。パレスチナの国旗が赤、黒、白、緑のスイカの切断面の色と同じだからです）

パレスチナの難民はガザを封鎖され、逃げることもできずに爆撃に遭って殺されています。主に女性や子どもたちが。ガザのことを天井のない監獄と言ったりしますが、著者は絶滅収容所だといいます。無差別に囚人が殺される監獄などないと。

ホロコーストに関するハリウッド映画はたくさんあるのに、パレスチナ問題の映画は見たことがない。アメリカがイスラエルを支援しているからです。ハマスにも問題はあります。が、桁が違う。どうしたらこのおそろしい大量虐殺をとめられるか、みなさんにできることを提示しています。私たちは微力だけど無力ではない。

『連続テレビ小説 虎に翼上』吉田恵里香作 NHK出版 2024

今月で終了してしまう朝の連続テレビ小説、法律家を目指して試験に合格して女性初の弁護士・裁判官になった寅子の物語。女性のハンディ、在日朝鮮人への偏見、戦争の理不尽、日本国憲法の存在、法律の利用法などいろいろなことを気づかされます。目をつぶってしようと思っていたことを顕在化して考えさせてくれる。励まされる小説です。



夏休みの読書運動「未来」で作製したPOP優秀作を9月7日（土）から11月2日（土）まで展示します。

保護者の方にもご案内ください。土曜日は卒業生や、他の学校の小学生（男女）、中学生女子に開放しています（サタデーライブラリー）。

